

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月27日

【評価実施概要】

事業所番号	4570700197		
法人名	社会福祉法人黒潮会		
事業所名	グループホームなごみ		
所在地	宮崎県串間市大字西方6787-18 (電話) 0987-72-3322		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成21年1月21日	評価確定日	平成21年2月27日

【情報提供票より】 (平成20年12月11日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成10年7月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤6人, 非常勤2人, 常勤換算6人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 0 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	6 名	男性 0 名	6 名
要介護1	0	要介護2	1
要介護3	1	要介護4	3
要介護5	1	要支援2	0
年齢	平均 84.8 歳	最低 72 歳	最高 100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中島医院、岡村歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは市の中心部の国道より少し入り込んだ閑静な住宅街の一角に位置し、既存の住宅がそのままホームとなっており、地域になじんだたたずまいとなっている。家の中にいると、どこからともなく聞こえて来る子供の泣き声「あら、また泣き出した」と近隣の雰囲気が日常的に漂う、そんな環境の温かいホームである。また、ホームのアピールする「地域住民との交流ができていて、皆さんの認知症に対する理解が深く自然な形で協力してもらっている」、このことはホームにとって長年培ってきた大きな財産であり、利用者にとっても大変重要なことでホームを始めとして地域を挙げての見守りの体制ができています。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	市町村との連携については、運営推進会議以外にも随時に市担当者の来訪があったり、ホームの担当者が行政と連携することの重要性を理解し、努めて出向く取り組みをしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員は評価の意義を理解したうえで、自己評価を作成している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	看取りに関する職員の人数や医師の対応についての質問や、事故報告に対して状況をもっと詳細に伝えてほしいなどの要望や意見が活発に出されている。また、討議内容を生かし次のステップに向けての機会の場にもなっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情処理ノートを準備し、家族の苦情等は細かく記入している。必要なケースの場合はサービス向上委員会に諮られ、みんなで共有する取り組みも徹底している。家族の意見や希望等は「なごみ便り」を通して相互の連携を図っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域住民の方々のホームに対する理解も深く、自然な形で協力してもらうなど良好な関係が築かれている。非常災害対策についても、ホームは積極的に取り組み地域とホームの連携は築かれている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	普通に地域社会や家庭の中に受け入れて、一緒に暮らそうとする福祉の理念（ノーマリゼーション）が作り上げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常に理念を意識し全職員で会議等を行い理念の理解や共有を確認しながら、日々の活動の中にも生かされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームのアピールする長年培ってきた地域住民との交流は、地域住民の方々のホームに対する理解も深く、自然な形で協力してもらうなど良好な関係が築かれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員が評価の意義を理解したうえで自己評価が作成され、また、外部評価により改善が求められた項目は、全職員で検討し改善へ向けての取り組みもできている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではホームにおける日々の活動内容、利用者の状態などを中心に報告するとともに、会議の参加者から質問や意見を受けるなど双方向的な会議となっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政を待つ体制ではなく、ホームの実情やケアサービスの取り組みを、行政担当者に折にふれアピールして行く積極的な姿勢がうかがえる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	「なごみ便り」を毎月発行し、利用者の状況等を伝え、重要事項説明書の金銭管理についての規定を踏まえて、入・出金記録を作成、家族に報告し同意をもらうなどの取り組みができています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の家族等の意見や苦情は苦情処理ノートに記載して、サービス向上委員会で検討され、その内容を外部にも報告するなどの取り組みもあり運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動に際しては、そのつど利用者には説明し、家族へは「なごみ便り」等で知らせている。職員の異動が最小限になるよう、職場環境の整備に努めている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は一定水準のサービスの維持やサービスの向上を目指し、日常的に絶えず話し合いが行われている。外部研修に参加した職員は職員会議等で報告し、全職員の共有を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症高齢者グループホーム連絡協議会を通して同業者との交流ができており、連携をとりながらスキルアップにも努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に利用者に来てもらったり、職員が会いに行ったりして、徐々にサービスの場になじみながら、本格的な利用に移っていきけるよう取り組みができています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者が「親と子」、「祖母と孫」のような温かい関係ができ上がっており、お互いに教え学びあう関係も築かれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が利用者一人ひとりの思いや意向に関心を払い、日々のかかわりの中で声掛けするなどして把握に努めている。また、ケアプランにも本人や家族の主訴が反映されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントを含め職員で意見交換、モニタリング、カンファレンス等で話し合い、それぞれの意見を反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しについては、カンファレンス、モニタリング等で定期的に見直す取り組みもできており、また、随時の見直しも状況に合わせたプラン作りができています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	契約書に「要望に応じて病院受診の援助、付き添い」と通院介助等が明記され、自主的なサービス支援体制ができています。また、非常災害対策についても地域のリーダー的役割も担っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の関連協力医の他、本人や家族が希望するかかりつけ医での医療を受診できるように支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制加算の指定を受け終末期に向けての対応・指針を定め家族、医師他の関係者を交えての話し合いをし、全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	契約書に明文化されている通り、日常の活動の中にもプライバシーの確保の徹底がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせた支援はできている。居室から出たくない并希望する方もおられるが、無理強いすることなく、その方のペースに合わせている。	○	お互いが支えあう関係を築いたり、一緒に過ごし苦楽を共にする関係は、ホームにとって重要なことであるため、身体状態のいかんに関わらず日常的に支援していくことを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が一緒になって食事の準備や食事、さりげない職員による食事の介助、片づけ等ができており楽しみながらの食事の支援ができています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者のニーズに合った入浴方法が取られ、残存機能を生かした入浴介助がなされている。また、入浴拒否の対応については話し合いをし、タイミングを合わせた入浴支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	介護計画の中でも個別の意向を聞くなどし、食事作りや洗濯物の整理等、その人の役割や場面作りができています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員が決まり事や日課として外出するのでなく、その日の状態や希望に応じて利用者が主体的に出かけ、日常的に外出を楽しめる支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が鍵をかけないケアを深く理解している。日中は出は入り口の施錠はされず、鍵をかけない実践に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防の立ち会いの下、地域住民、職員、利用者が一体となった訓練の実施や、日常的にさまざまな想定避難シミュレーションを行うなど、災害については適切な策が取られている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取や水分量は細かくチェック表が作成され、チェック表をもとに摂取確保に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いた部屋のたたずまいは、不快な臭いや音は無く使い慣れたちゃぶ台を囲み、ゆったりとした気分で過ごせる生活の場になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみのもの等が置かれ、その人らしく過ごせる部屋になっている。		

※  は、重点項目。